教訓
繪入

ひゝなくさみ

紀行二

口9
1028
14

京都帝国大学図書

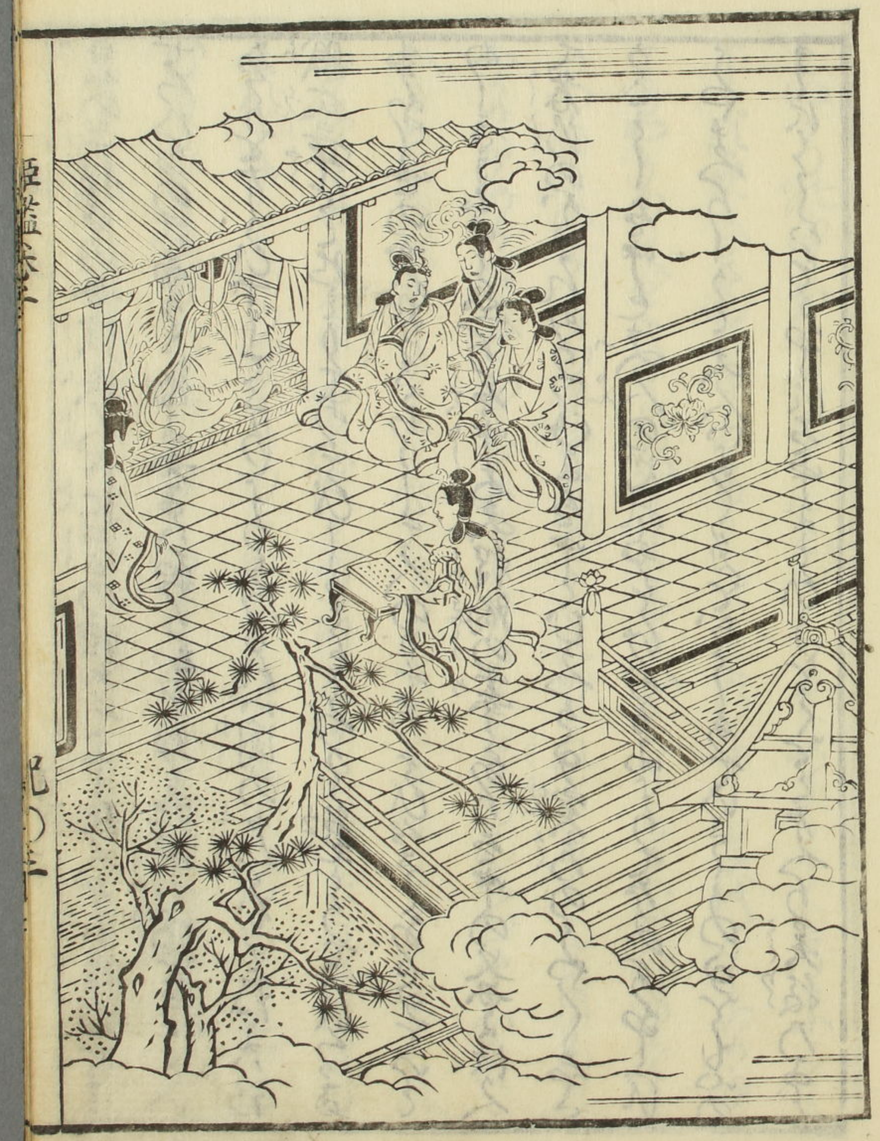
ロ9
1028
14

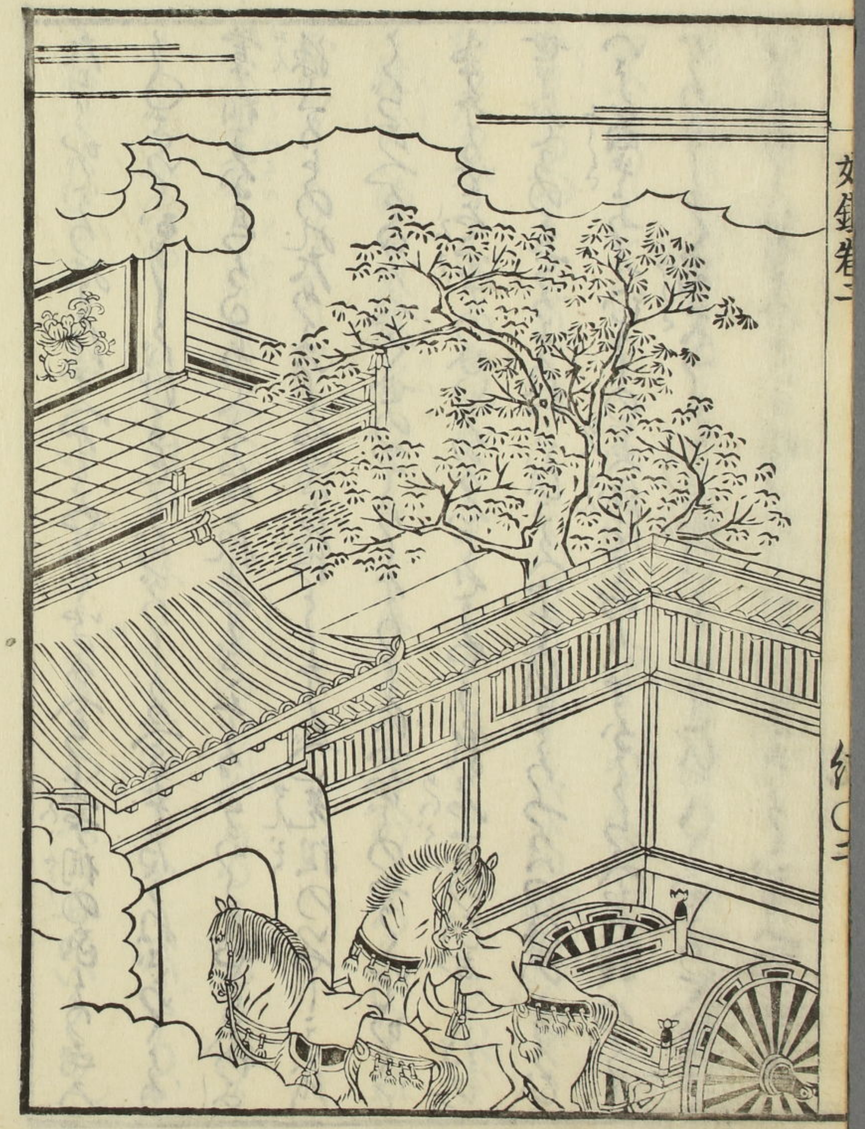
比賣鑑卷之二

紀行第二　此卷六冊一乃至そのすゑなり

唐の柳仲郢が母韓氏八桐國韓休れすゑなりて家とおさむるのけ[illegible]ちとゝかくけ
なりけるが柳氏の妻となりて家とおさむるのけ[illegible]ちとゝかくけ
づまやうふてもごとにそのうゝれ官氣ふかけとして見よなしへ
ひと柳氏よりてもうこれとおもふるこゝもその
にひゝきてうつるとんどつのよれもちりの縁ぐうを名て
あやうとおもふこゝぬひふどと酒ふらび里へうもう時を金聖
いろえてう赤松よりてどして竹のたゞいとけうゞくしく青
女房二人そひゆくゞりなると仲郢るゝびよそのかれみども

和ことゝもみくるゝ時は若叅美連然腋ゐで云ことゝのぐゝまゝ
りとつゝき合せまうゝ色くゝこゝとわゝうゝるゝぐゝ表すゝ和ま
ゐゝぐゝ形ゝとゝたゝきんゝゐゝりゝまゝゐゝくゝゐゝるゝまゝ乳ゝとゝてゝ和
ゐゝよゝゐゝやゝと花なりゝぞゝのゝれ母なゝゝゐゝの勤若ゝるゝさ
しゝたゝめゝふゝてゝあゝまゝ花ゐゝかゝどゝてゝゝゝとゝわゝゝゝりゝくゝゝゝゝ
と雛氏は海ゝとゝれ慈愛ゝうゝくゝるゝゝ有ゝのゝゐゝのゝよゝゝゝびゝとゝれ
ゐゝ有ゝうゝあゝゝざゝりゝ行ゝゝと三ゝゝ百ゝ
家のゝ左寧李邦義の母あゝゝゝゝれゝゐ孫ゝのゝあゝゐゝりゝるゝゝ有ゝてゝひゝゝ
しゝゝゝゐゝのゝゝゝゝゝゝゝ内ゝゐ孫ゝざゝゝゝゝゝゐゝゐゝゝゝゝゝゐ
ゝれゝゝゝゝゝゝゝ





家の二種よの女候夫人八位屋の妻ゝて七位人なりゝやゝ
七ゝ八ゝの位あるゝ沼よ女子八新ゝ妻八明媚とゝゝい
角ゝをなゝひずゝてさゝ見ゝとゝゝれ八園のゝ子ゝ女ゝ子ゝ八結
賦文章ゝとゝたゝゝりてゝゝそびゝゝゝ

ろをかくして文のそこぞうみるやうひよりてりなりおのとれ
かうるとしごろせくたぐふそうよなりぬそのいとあさかぐりかうろ
色くれどそこへくらびくあ人はあすきあるしおこれろしけうとと
ころかるるかるとあるまべ人あるそこいぐさかへおろをでこのすしいろ
まてこと無てぐまかよはまあくあぐこのけうるおりうぐろぐそこぐ
うふありさあぐろぐるあんやこりそのそこかうあもこうりる
らぐろまめくうぐとし会けまつひよ光のころこよすへこあの物な
どとあぐまうるのあまべいこひぐめていくこおふさこり物どのこ
せべおこあびてはいるあこんとおべとあこあるのころるのとゆるさ
どりしへあここのあまべよりこすぐあまでもこのころり成

めべどていくくかぐまりぐこ光こをひくのびぐこ光こをかべれと
うまれこしへよりて二程よのちまでも衣食よこうひなくへとあ
こひのくころるのをかりさ成へのはりうこ光へどこうひくこうを
なへせな来れりの時へ家まぐこうれどもうこぐくうりてかこりこ
程よつのうこその徳とるしあくてうこさぐりのたとおこうはの
世の儒宗くるまり明道先生伊川先生こうれなりその母りまと
こゆるのりるこふへちべまりくこけさへべりなりこ程の母
こけうこびりるうこずこうくまの徳となりりこへ世のつのれ母
よりうべこかくして文よこせべうこバ母のあこれこかべこりひあへる
いこ深こまべひこ程母つひりりこひまべひとけこれこりへこと

くをゆくゝかりろり
宋の和靖先生母の陳氏なりしが先生幼ごろ病
をいたゝくうれつきさんなく家をおさむるに
和靖ごいとあるうしとてゝ母なんゆるびなくゐるち
いひよつさてもるゝどれはよさごろめやゝ人とるまろとも
和靖先生ごづ伊川の程先生なりゝ師とて仕へまおば
先生ろ師よつゝ門ゝ毎ゝ年ゝ学ゝ問ゝ有ゝ
ろつゝ学ゝ問ゝ年ゝ毎ゝ年ゝ学ゝ問ゝ有ゝ
てもこまげざれば母よそゝびと和靖ごいまめと成りて
師よたゝ学とつゝあやろうれどもはよ及ばずとげどゝてゝ

ぞりゝうべまより孫をもひなゝ為とくゝて世をつく
さゝやとたゝ年ひろれば先生これ母ごろ
ゝりて母ようべゝとゝ和靖くゝ母よつゝまば母我日ごろ
そもの若たとりてそうぶをなぐさむゝとゝたゝひつま俸孫をも
てうゝ為と御ゝまうんとゝ為てもおりゝぞゝいひろゝと先生
つゝたゝさゝて喪なりれ母ゝうく感ぜゝれろり和靖をれなり
宦達九のぞゝをゝえうゝれてゝたゝをゝれゝれど世の人つゝまゝさ
うひゝゝ先いよゝくいゝちゝごろゝ為ゝをゝれゝ世ゝるれた
とあゝめ若ゝとゝりんゝでてよのいゝざゝとゝめゝまゝやうの貞女なる
涙の書を家とつひろゝ書世家ゝ妻なりそのうゝちゝ服氏名

と服ちゝ〳〵ちゝ〳〵はちゝとゝけるゞみさいたゞちく徳行
はありて文章世よすぐれ学識ありしゝべ時のゝゞ若和
皇帝おりしくめ〳〵のゞさん后文人乃師ゝてを〳〵乃びを
ゝひさ曹大家女誡七章を作る女誡ゝゝゝ

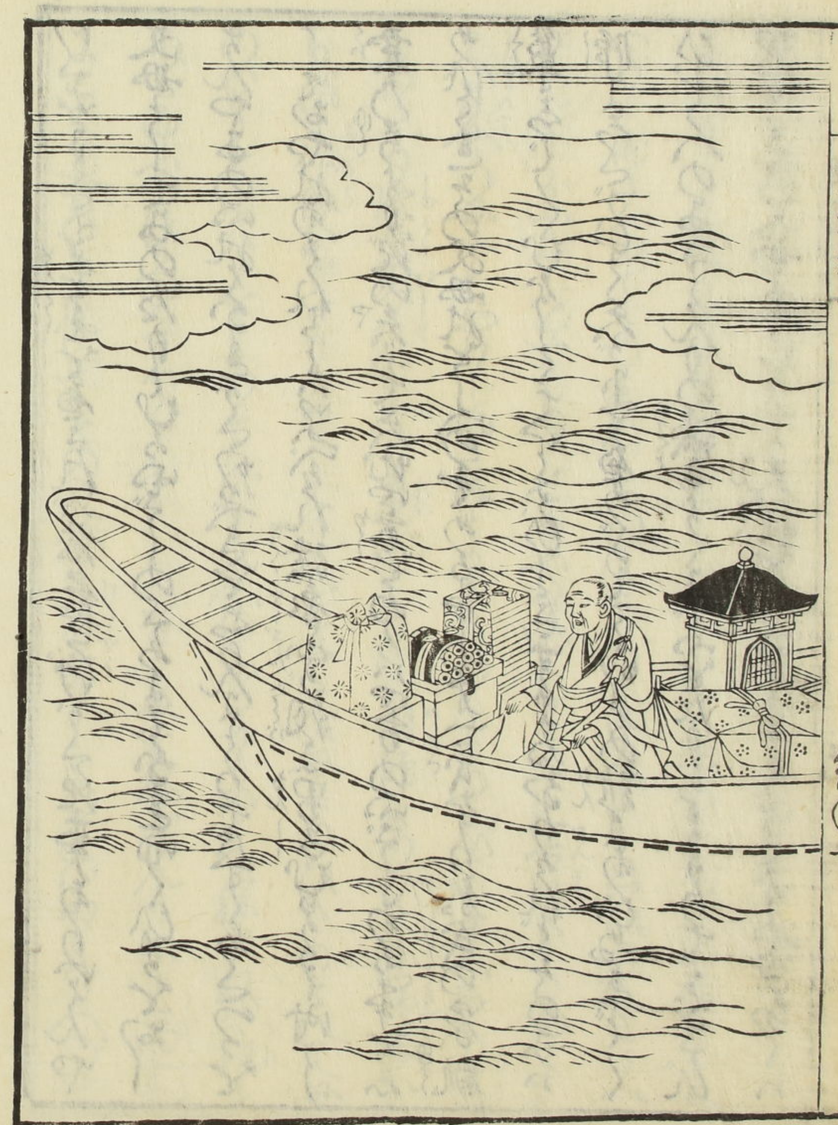
てくらとあるがごとく世よのうつりかはるにしたがひて
作りかへ唐の長孫皇后の女則十巻あり元帥在が妻劉
氏が女儀一巻あり尚文の宋氏が女誡十巻あり王凝
が妻の楊氏が女誡一巻あり明帝よりて后妃のため
まうけぬることをおかうり
うどがみむしろ法春れ山恵心院の僧都源信つひにろかう
くまなきさま儒なり又ハト祝ひ乃ちふじ母の授ハ法華り
ハ大和の菅木の人なりけるが父よりおさめてくまこの母
又のつひにさるかうてらごとに山の恵恵僧正よつあそば
師よりかりて世人よくにたく年十六にて内のれハ孫

よ同者とよくさうれんがその産すて僧都よなさせあへり
くてはあるべの母うたく家をもひくくなりぬ僧都いと
さぬうりとれどちうふびたりおりとそうちを
ぬあるうはさうぬべさおよ仏事しけう等師よ結をてわく布
施かどおりくえてくればうまくていそ仏母のりくへが
さくくりうりいる世のつてひをたりどくればうまくこ
ぐれるんとこひくるまうれうたくおそひさつくさあくくるく
いてふうどうこあるよ母のいひろつくれの母ごうりをたなけうま
るんとおりつぐそこをたぐ俗ってそくべくれ家のつくんなんで
ちるつくさるさすがふやくくてをまぐそれど又もうれしはね

乃世たとうんとおりひてこそいとけなうなる法師あたなしたされど幸ごろいとものりくてすぐつるといまろくこは利欲あ無業とうろうれ濃まーさまとうひとゆびうちちらかれよろう信弘られとうくてうりたんいよくぬうこの利の根とうちうて信を信弘ろうこんどうなる幸のようう横川よりこうりるてはいるのとうなひろれば世ようかいけゆうすどうとうびうてひろうとうれのとうこんいうろおよあーうれどいづまのたすもそのおれ学とつうあく法とふーなんーとうりふうくくうげまーさうるべさ事よとていふーこの田櫻陶侃が母のふさーまもちうくらんーひーホ大るの洲門育兎うーはううこーよりうてはとりくんの心

ざーわまどもうぐ出のつうひろ帳ろうくあてひてうされうろふうりたぐうふぐりうそ寺るあ天えのすあ寺家りありけうあうさかひづひのたうりとうくうちうてんとうされど広子よとうぶ母ひくりとあうすてゆうさんうの学ろうづうろ爸ーとうぐりうんとすれど芸懐とうぐうまるーおりひうづーいてもうくとうゆぐうさうなれいづるよ母ろうりふうろうりあ母うてあうとうーめ老のゆふべうまぐよれ学うき法ろうとあうくーんの学ふうりひうてうふうとうるーくうるれうたうくいうりふーどもうぐでうれ祇ひひのゆうーゆうとうつうよりあぐーうーゆうろうりうくーゆうーくうてふひうくうまうう老の学とうようけどーてうゆ乳ひのまうめーあふとうり賀学うてうてびうろうびう

てゝひいなゝていとくゝあゝひの方へひとるゝめゝぐゝ成けゝして
そゞひゝとも成りあゝをゝまゝてゝぐゝちゝれゝようゝぐゝろゝもゝ
おゝゝ海さゞおゞゝうゝまゝゝくゝひゝさゝいゝすゞゝゝをゝひゝつゝるゝよゝう人
ゝちゝくゝゝゝぐゝぐゝとゝすゝゝめゝをゝのゝゝひゝとゝゝゝゝ元若緣なり海ゝよ
人ゝ世のゝゝりゝてゝゝゝゝ



なごやそのひざりとしたあくやしなまよこるうんを〜天性よりく
ふるのわくば日こくよこ牲とそのそ文無とあ〜ものなを
ふ巻のよなるべ〜ことつあり
むり〜こ外ちの虚空ちふ法師ありその師智奥やまひよ
てらくけちくもいえび身ぐを安倍晴明よいのりをふ時
明ぐくく師の答まひすくひぐてもく弟よろうんくあ〜ばを
ふ法をこかひうんと法師づ日ころ八師のいけちぐよぐく
為ぐ我ろうんと人ぐにいひろれど山吋ろなりてたもりもを
すこもり茶ろ〜虚空ちふくふのくある弟をとつろ八蓋れ
ゆいうんや師よろりてゆ死をるふこやのぐくさ乃あ〜んされ

いろはの京言葉十二号

徒然草 百六段

言語道断の上人京のぐり
なる詞をしるして物なる如の物
あいうえおかきくけこ

法然の上人

文盲の
豪手載の物語の法然のこと
あり古語なり

右の法然上人ぐりの先に云へる
同名の人なり

ど我一人の母ありて年いたく老たりぬるまゝにてのら
ゐくくしべてびんくえくとなりてゆくべかれて母のりと
ゆくてまのようとうる母さてやどろきうるめるゆかざるか
うゆうぶぶぶとうがていつやう我老ゝてゐけられとまう分か
はべそれひりそぞうふぞてのうるを亟とすてくれびべ
とおりひきやきれど師の命よろんうどのへいでうねの世すでも
りまとてうるるゐんその第よいさるふぶ一塩よゐりぶくと
そゐうてまた我くゆうけうとゐうれば虚空ていうれくお
りひぶぶなくくりるて時明を結ぶてうの法とを
るうをけうよ城ていまうる感涙よりてや師のやまひいえくを

男も女ぶうりうり虚空たゐるぶうぶれどそのふぶ一いれべ一
それ人父よゐうぶれいむまれ若ゐよゐぶれい海一ゐまび師よゐ
らぶれば海ちびとそそ人の世さうて世ろはひうりはりてこ
ゐうまゐまゐるうどせとすて身びむうるまうりゐ色
乃なり虚空ぶ母師とゐやこの身ひくうべくなりひりてまの男
乃とうるるとゆうせるいそのづくひうわるひくうくゆく一
りうり言れども師の身よ浅ら海きゐりてやうう海塩水葉を
言うるまうく師のそ一よれひたち身者と文くふくうぶうと紀
徳念の執着小系わ換ち時執の母姓八義系尾ゐりてたち私
下猫尾とうぶゐう時ゐると結ぶてまひうよ煙けうるゐう濃さの

せうとの塚介
塚介美濃人
塚介入道覚智

徳新門
文政ノ作ニ
覚地ニ

尼の兄秋田

もゝい兎に
新令原語新義
ゞ〳〵

徳新門
文政ノ作
覚地ニ

安元經学
いとゝ
やまひ

座主ごぞうと称尼ごぞうふかくてゆまりつくるまろれば せうと
の城介義泰ぞの日れけいあのいてひろうが給りてなげしやこう
そうせいうんさやこのようえうさろ若ようひこやこれろれいそのわくく
尼ごぞうまいりまいりもゆさうり給ひしじくて程いるづくくまひう義泰と
かとろうくいうんいうくろうふてやとくひべまぐしまゆきこうしく
やしうくひてゆきれうまび尼もねようふうくくうくくうくくもうくくど
ちそうごうりいうごとゆくくうくくうべうさうりあいやあれうあいごうう法理
して用ふるゆくくうろ尼くくゆうくくうせてひづあんあうなりくくや
されけう天ごくゆまうりごうつくくくのあやうれどいごうくくこのまびくて
うくいうごうふくくせのうくうふそのあれ武員ふ彼の時且法理と

くうくくくくあうのくくとお孫ようまりくくせくくあ用れたいえくくいうくうくくあ
ひくあうくくやゆうくくにあいうくあ西くくあうくくあなりくくくくくくくくくくあ
孫城介入道光智ひくくあなり時光とねのふ法りる義くうひ
てあ西ひくくふ法りあ西のえくくうごなくくくくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のしけるも毋のちゝまもりをとうてこゝろ
相模ふか家氏政の後代八月清れ上野介と武勇の士あり
その妻もさうみのいまれなりけるぶすぐれくちゝつゝさぬ
べくなりもちゝも如何ようくれるゝ義勝ゝ息
男あつくして家のゐ業中るまでもつゝよそのおさひとそ
ゝ思ゝりくるあるゝ時山上の社よまつりけるの坂ぐちよりと
て大さうる牛よ儀二月つゝあくるゝ時二月とうけぐち
ちりぬこゝろして依のゐい岩れうどれかりとくとぐまる義ふ
ハと切ぐしうんとすきこバ牛ハ谷そこへおちくゝ死ぬ者ゝさら
とそりあきんゆゝもゝるれバ牛ひきあゝれゆゝひ牛ハくこ

いさゝよなりてあえぐりぬ人ゝまゝとんくあつまこゝふたゝびあこ
りものくとくゝひ樂ゝりありそたぐもゝり牛のくゝよ三ゝり
義とつあぐゝ牛とぐこゝそゝくとりゝびたのゝかゝ牛
引ゝそきりゝるゝの見とおぐゝあり吉とつゝひくゝ人のゝぐよ
あゝぐゝるゝとおゝ人ゝぬゝ人のゝこゝ人とゝひとゝ名ゝ名ゝ名ゝぐ
きゝ毋のちゝとゝけゝく大力ゝ武勇文よゝゝりそた
むゝぐゝれゝくゝさゝよ猛風とゝゝるひ関八州ゝゝくゝれなゝくゝの一強者
ふゝいゝれゝるゝうゝものゝ富力ゝゝとゝそ傲慢ゝ者れなゝるゝのゝお
し毋ゝくゝいゝりゝあゝくゝいゝくゝちゝくゝたゝくゝくゝそゝ涙ゝすゝくゝる
ゝゝ歌とゝつゝるゝいゝくゝ毋ゝ武勇なゝ大ゝ将のゝゝつゝもゝあゝよゝあゝゝ

楚の項王はちゝ大夫とゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ちゝ烏江のつゝさまひて命をうしなひ張良はその子ゝ女の
ごゝくなりしゝとゝもゝうゝ[illegible]帷幕の内よめゝ[illegible]ゝ里
ゝかゝよりゝ一方れ大ゝるゝとゝゝんゝゝゝゝまゝとゝゝ[illegible]
ちゝゝゝゝ